

「増毛山道」復元へ

30日から別荘地区で開始



【増毛】閉鎖されてから半世紀以上が経過した「増毛山道」の復元作業が、三十日午前八時から町内別荘地区の津田屋の山道起点から始まる。作業は町や留萌市、札幌市、石狩市のメンバーで組織された増毛山道の会(伊達東会長)の会員らで、山道跡を探しながら復元を進める。石崎大輔町長は「山道の復元は簡単にはいかないとと思うが、町はできる範囲で協力したい」と話している。

増毛山道は、江戸時代ハマミンケ場所を請け負った。ニシン漁が衰退を末期の安政四年(一八五七)に当時のマシケ、衛門が自費を投じて開削

住民の生活道として使われていた。開削は米価換算で約一億円の工費が投入されたという。ルートは、町内別荘地区津田屋を起点に天狗岳(標高九三九㊦)、雄冬岳(同一、一九七・六㊦)、さらに浜益御殿(同一、〇三八・六㊦)の頂上部を通り抜けて石狩市の浜益地区幌神社に至る約三十八㊦区間。道

町内別荘地区津田屋に建つ「増毛山道」の起点を伝える史跡建柱

内各地に散在した漁場間の連絡道の一つとして整備されたが、現在はササに覆われて通行不能になっている。

増毛山道の会は昨年十月、山道の復元を目指す目的で伊達林右衛の子孫で札幌市在住の伊達さんを中心に設立した。発

伐採許可を得る作業を中心として整備された。復元作業では、伊達会長や会員ら十四人が史跡建柱が建つ別荘地区津田屋に集合し、伐採班八人と調査班六人に分かれ作業する。調査班は、雑草の中に埋もれた山道跡を探しながらテープなどで目印を付けて進む。伐採

班は四台の伐採機械を使い、目印に従って作業に取り組む。三十一日も同様な手順で作業を行う。

増毛山道の会事務局長で留萌市港町三丁目で測量会社を営む小杉忠利さんは「ボランティアで作業を進めますが、予定では三年後にはめどがつくと考えています」という。同会は、復元作業の課題の一つである道有林の伐採について、六月中旬に留萌支庁を訪問する予定だ。

増毛山道の会事務局長で留萌市港町三丁目で測量会社を営む小杉忠利さんは「ボランティアで作業を進めますが、予定では三年後にはめどがつくと考えています」という。同会は、復元作業の課題の一つである道有林の伐採について、六月中旬に留萌支庁を訪問する予定だ。